

問1 都市の人口構造において「昼夜間人口比率」という言葉が使われます。この比率が100パーセントを大きく超える地域の特徴を説明したものと
して、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 大規模な工場が立ち並び工業地帯であり、交代制勤務のために昼間と夜間の人口が常に一定に保たれている。 | 2. 都市の郊外にあたり、豊かな自然環境を求めて移住する人が多いため、夜間に滞在する居住人口が昼間の活動人口を上回っている。 | 3. 住宅供給会社による大規模な住宅団地が整備された地域であり、都心へ通勤する現役世代が多いため、昼間の人口が極端に少なくなっている。 | 4. 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。 |
|--|--|---|---|

問2 日本の再生可能エネルギーの利用状況について、岩手県や鹿児島県とともに、国内最大級の発電施設がある大分県などが発電量の上位を占めて
いる発電方式はどれか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|---------|----------|---------|
| 1. バイオマス発電 | 2. 風力発電 | 3. 太陽光発電 | 4. 地熱発電 |
|------------|---------|----------|---------|

問3 1970年代に発生した石油危機をきっかけに、日本を含む多くの国で研究が進められました。太陽光や風力、あるいは動植物などの生物資源を利用
したエネルギーのように、自然界に常に存在し、繰り返し利用できるエネルギーの総称を何と言いますか。 (2026年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|-------------|---------|---------------|
| 1. 再生可能エネルギー | 2. 原子力エネルギー | 3. 化石燃料 | 4. 火力発電用エネルギー |
|--------------|-------------|---------|---------------|

問4 かつて大規模な工場が立地していた駅周辺の土地において、近年進められている「再開発」の手法や特徴について述べた文として、正しいもの
はどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 歴史的な工場建屋をすべて解体した上で、その場所を大規模な物流トラック専用の駐車場に転換する手法 | 2. 駅に近い利便性を活かし、工場跡地に商業施設やオフィス、住宅などを一体的に整備して土地を有効活用する手法 | 3. 都市の過密化を防ぐために、駅周辺の更地をすべて農地に転換し、都市農業の拠点として整備する手法 | 4. 工場の跡地を元の自然に近い状態に戻すため、一帯をすべて保安林に指定して開発を制限する手法 |
|--|--|---|---|

問5 スマートフォンや電気自動車のモーター、高性能な電子部品など、現代の先端技術を用いた製品の製造に欠かせない資源について述べたものと
して、最も適切なものはどれか。 (2025年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 鉄鋼の原料となる鉄鉱石や、電線などに使われる銅といった、古くから工業製品の主軸となってきた主要な金属資源。 | 2. リチウムやコバルトなどに代表される、地球上の存在量が少ない、あるいは純粋な物質として取り出すことが難しいレアメタル（希少金属）。 | 3. ボーキサイトを原料として精錬され、軽くて加工がしやすいため窓枠や飲料缶などに広く利用されるアルミニウム。 | 4. 石炭や石油、天然ガスのように、地層の中に埋蔵されており、燃焼させることでエネルギーを得ることができる化石燃料。 |
|--|---|---|--|

問6 日本の食料自給率の推移を、野菜・果実・小麦の3つの品目について示した統計において、それぞれの自給率の傾向を説明したものとして最も適
切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 野菜は鮮度を重視する特性から高い水準で安定し、果実は中程度、小麦は輸入依存度が高いため最も低い水準で推移している。 | 2. 小麦は大規模な機械化が進んでいるため高い水準で安定し、果実は中程度、野菜は輸入が増加したため最も低い水準で推移している。 | 3. 果実は国内での栽培に適しているため高い水準で安定し、野菜は中程度、小麦は消費が減ったため最も低い水準で推移している。 | 4. 野菜は高い水準で安定しているが、小麦はパン食の普及により中程度まで上昇し、果実が最も低い水準で推移している。 |
|--|---|---|---|

問7 日本の高度経済成長期にあたる1970年頃の貿易統計において、石油（14.8%）や鉄鉱石などの原材料の輸入割合が目立って高かった理由として、
最も適切な説明はどれか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日本国内で綿花や生糸などの繊維原料が自給できるようになり、海外から輸入する必要がなくなったため。 | 2. 高度経済成長によって国民の生活が豊かになり、自家用車を動かすためのガソリンが不足したことが唯一の要因である。 | 3. 鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業が発展し、製造工程で大量の資源やエネルギーを必要としたため。 | 4. 欧米諸国との貿易摩擦を避けるために、製品の輸出を自粛して原材料の輸入を強制的に増やしたため。 |
|---|---|---|---|

問8 日本の農業において、ロボット技術を活用した機械化を進めたり、農家一戸あたりの農地面積や家畜の飼養頭数を増やしたりして生産性を高め
る取り組みを何といいいますか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------|------------------|------------|------------------|
| 1. 海外への輸出を増やす取り組み | 2. 地産地消を促進する取り組み | 3. 農業の規模拡大 | 4. 空き地を農地にする取り組み |
|-------------------|------------------|------------|------------------|

問9 宮崎平野や高知平野で行われている、冬の温暖な気候を利用してビニールハウスなどで野菜の成長を早める「促成栽培」の特徴について説明し
たものとして、正しいものはどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 広大な土地を利用して、機械化による生産コストの削減を徹底することで利益を上げている。 | 2. 化学肥料の使用を抑え、自然の気候のみを利用することで環境負荷の少ない農業を目指している。 | 3. 大消費地である東京や大阪に隣接しているため、輸送距離の短縮による低価格販売を実現している。 | 4. 出荷時期を他産地とずらすことで、市場価格が高い時期を狙って出荷し、収益性を高めている。 |
|---|---|--|--|

問10 青森県、千葉県、山梨県、鳥取県、島根県の5県における果実の収穫量を比較した統計において、青森県がりんご、山梨県がももやぶどうで全国
上位を占める中、鳥取県において1万トンを超える高い数値を示し、県の代表的な特産品として位置づけられている果実を選びなさい。 (2023年
鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|--------|----------|-------|
| 1. 日本なし | 2. りんご | 3. さくらんぼ | 4. もも |
|---------|--------|----------|-------|

問11 かつての日本の貿易の特徴を説明した資料において、日本が「加工貿易」を中心に経済を発展させてきた背景と、その仕組みを説明した文とし
て最も適切なものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 他国から輸入した荷物を、加工せずにそのまま別の国へ転売することで、仲介手数料を得る仕組み。 | 2. 国内で不足している食料品を輸入し、余った農産物を海外へ輸出することで、国内の食料自給率の向上を目指す仕組み。 | 3. 海外から輸入した原料を国内の技術で製品に加工し、輸出によって高い利益を得ることで、資源の少なさを補う仕組み。 | 4. 開発途上国に技術援助を行い、現地で生産された製品をすべて買い取ることで、国際貢献と国内消費の拡大を図る仕組み。 |
|--|---|---|--|